

1 単元名 古代までの日本 ～奈良時代～

2 単元について

この単元は、学習指導要領の歴史的分野の大項目「(2)古代までの日本」に入る。中項目イでは「律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる」とある。また、学習指導要領解説社会編の「改訂の要点」では、歴史的分野の言語活動の充実について、「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動や、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習などを通じて、歴史的な事象について考察・判断しその成果を自分の言葉で表現する学習を行う」とある。「時代を大観し表現する活動を通して、その時代がどのような特色をもつ時代だったのかをとらえる学習」つまり「各時代の特色をとらえる学習」は「思考・判断や表現などの活動を通じて、歴史について考察する力や説明する力を育てる学習」であり、「学習のねらいを明確に意識させるための「導入」や、学習の成果を確かにつかませるための「まとめ」が重視され、その工夫と充実が図られる必要がある」と位置付けられている。また、「政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して各時代の特色を明らかに」するとある。学習指導要領を基に、中世を「内政面」「外交面」「社会・産業面」「文化面」という4つの視点で捉えた研究があり、単元ごとの関連性をもたせる上でも、古代までの日本の特色についても、同様の視点で捉える。

古代までの日本の時代の特色を4つの視点で捉えると、「内政面」については天皇や貴族を中心とした律令国家が確立した時代であるといえる。「外交面」では大陸の文物や制度を積極的に取り入れた時代といえる。また、「社会・産業面」では農民たちが重い税負担を負っていたと同時に、皇朝十二銭に代表されるように朝廷によって貨幣の鑄造が行われた時代であると捉えることができる。最後に、「文化面」では東アジアとの交流の中、大陸の文化を積極的に取り入れた天平文化や、外国に対して日本を意識し始めたことによって発展した国風文化が栄えた時代でもある。その中で特に「外交面」の特色がより顕著になった奈良時代の特色を捉えることで、古代までの日本の特色を捉える切り口としたい。

社会的な事象を捉えるためには、「具体的な事実」すなわち「知識」と、そこから見えてくる「社会的見方」すなわち「概念」という側面から順に特色をまとめると次のようになる。

奈良時代の「内政面」の特色

<知識>

- ・中国（唐）の律令国家の仕組みを積極的に取り入れ中央集権体制が整備されたこと
- ・天皇や貴族など朝廷を中心に政治が行われたこと
- ・天皇の力を示し、高い位の貴族を役人として住まわせるための平城京がつくられたこと
- ・聖武天皇・光明皇后は仏教の力で国を守り不安を取り除こうとしたこと
- ・天皇の地位や権力の正統性を明らかにする目的で古事記・日本書紀などの歴史書が作られたこと

<概念>

「天皇や貴族の強力なリーダーシップによって中央集権政治（律令政治）が行われるようになった時代」

奈良時代の「外交面」の特色

<知識>

- ・国家事業として、遣唐使という朝廷による外交使節団が派遣されたこと
- ・当時の日本の周辺国は唐・新羅・渤海があり、それらの国々と交流をもっていたこと

<概念>

「朝廷が使節を派遣することによって大陸の文化や仕組みを取り入れることができた時代」

奈良時代の「社会・産業面」の特色

<知識>

- ・庶民は良民と賤民に分けられたこと
- ・農民に種籾を貸し出し、高い利息を取る制度が存在したこと
- ・農民の中には重い税負担を逃れるために、逃亡や浮浪する者がいたこと
- ・貴族は裕福な食事をする一方で庶民は質素な生活をしてきたこと
- ・和同開珎のような貨幣が発行され、平城京の建設費用に充てられたこと
- ・三世一身法や墾田永年私財法など土地制度に関する法が整備されたこと

<概念>

「農民の重い税負担や貨幣の発行によって都の建設が進められた時代」

奈良時代の「文化面」の特色

<知識>

- ・遣唐使の派遣に伴い、シルクロードなど大陸の文化の影響を受けたこと
- ・民間に仏教を広めた行基らの活動が盛んであったこと
- ・行基らの協力を得て都に大仏をまつる東大寺や地方の国ごとに国分寺や国分尼寺が建設されたこと
- ・寺院や僧の制度を整えるために、唐から鑑真を招いたこと
- ・天皇や貴族から庶民や防人が作った和歌が納められている万葉集がつくられたこと

<概念>

「天皇や貴族ら為政者の政策によって仏教文化が栄えた時代」

社会科歴史学習における多面的・多角的な考察を導く方法の一つとして「解釈型歴史学習」がある（富山大学人間発達科学部附属中学校 2012）。歴史は、解釈する人のもつ情報や理解の仕方、立場、時代背景などによって表現が変わるものであり、だからこそ、多くの他者との相互作用的な情報交換である「対話」を必須の活動と考える歴史学習のことである。本単元では、生徒に解釈をさせることで社会的判断力を育成したいと考える。

生徒たちに奈良時代の特色についてまとめさせるプリテストを実施した結果、聖武天皇・行基・鑑真といった歴史上の人物に関することや、東大寺大仏造立・平城京遷都・遣唐使派遣といった政治上の事績など「知識」について触れているものや、政治面や文化面についてそれぞれ個別に特色をまとめることができても、律令国家の成立の背景にある東アジア情勢や、農民への重税を基盤としながら都に華やかな仏教文化が栄えたというように、相互に視点を関連付けて特色をまとめる「概念」までには至っていないことがうかがえる。

そこで本時の学習では、奈良時代の日本の特色を大観するために、「鑑真は奈良時代の日本をどう思ったのか」について判断させ、討論を行う。鑑真を取り上げる理由として、天皇や貴族、農民といった視線では、その立場が直接的であり、現代人の視線では、現代との比較のみで終始してしまうのに対し、鑑真は当時の中国（唐）から来日していることから間接的に、また同時代の中国と比較することで日本の特色を客観的に捉えることができると考えたからである。鑑真の生い立ちからは、若い時期から中国の政争を間近に見てきたことにより政治に対する期待が薄かったこと、貧民救済などの慈善事業に力を入れていたこと、天台宗や律宗について学ぶなど多くの人々を救うために仏教に深く帰依していたことが分かる。また、4度の失敗にもくじけず来日することにその生涯をかけていることから、日本に対し多くの期待をもっていたことも分かる。日本においては税負担を逃れるために私度僧が横行し、鎮護国家の根底を揺さぶり始めていたことを危惧する天皇により、正しく戒律を定める知識と権威をもつ僧の存在が囑望されていた。中国においては皇帝の代が替わるごとに仏教と道教がその立場を微妙に変化させていた。このように、鑑真が来日した背景には当時の日本と中国の仏教界が抱える問題も背景にあったと考えられている。鑑真が奈良時代の日本をどう思ったのかについて「選択する基準」として「鑑真の生い立ちから解釈した鑑真の見方・考え方」を論点とした討論を行い、社会的判断力を高めさせたい。

3 単元の目標

- ・奈良時代の日本の特色について、意欲的に追究して時代の特色を捉えようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・奈良時代の日本の特色について、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどして、歴史的な事象を関連付けて予想を立てたり、検証するために資料を基に考えたりすることができる。【思考・判断・表現】
- ・奈良時代の日本の特色について、解釈したことを視点に、価値判断することができる。【思考・判断・表現】
- ・奈良時代の日本の特色について、資料から読み取れることを検証の根拠として活用することができる。【技能】
- ・奈良時代の日本の特色について、理解することができる。【知識・理解】

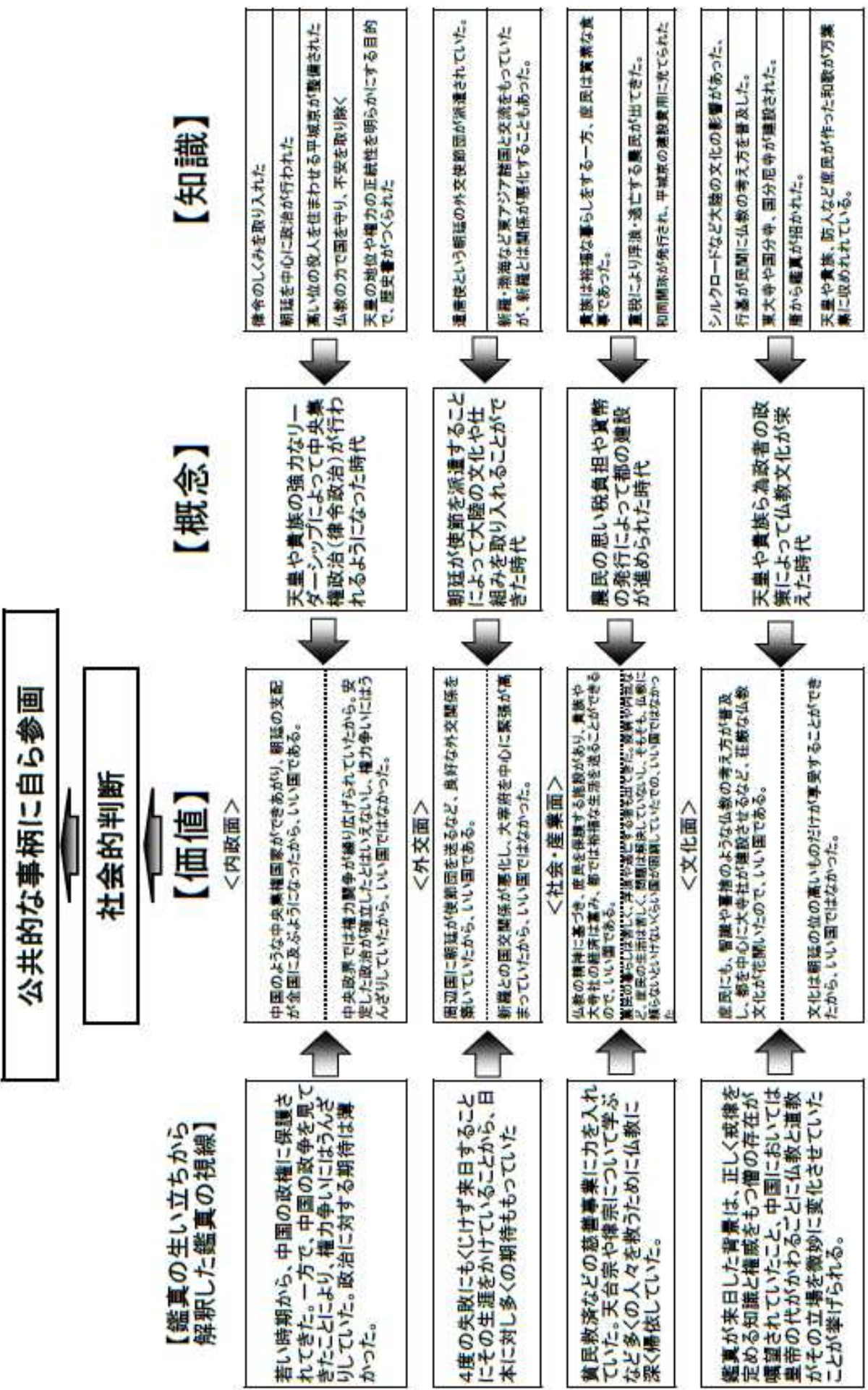
4 全体計画（全8時間）

第1次：鑑真が見た天平文化は、どんな特色をもつ文化だったのだろうか・・・ 1時間

第2次：なぜ天平文化は栄えたのだろうか・・・ 4時間

第3次：鑑真は奈良時代の日本をどう思ったのだろうか・・・ 3時間(本時3/3)

社会的判断力育成にかかわる関係図 (鑑真から見た「古代までの日本～奈良時代～」の場合)



5 本時の学習

(1) 目標

奈良時代の日本の特色について、様々な資料を互いに関連付け、根拠を示しながら解釈したことを視点に、価値判断することができる。

(2) 本時で身に付けさせたい力

学習した内容から奈良時代の特色を捉え、どんな時代だったのかについて解釈することを通して、価値判断する力を身に付けさせる。

(3) 取り入れる言語活動

【討論する】

(4) 期待する効果

討論は話し手と聞き手が入れ替わりながら展開することから、自分の立場等との共通点や相違点について比較・分類することが可能であり、異なる視点や価値観に気付くことができる。また、自分の見方・考え方を根拠付けるものに留意したり、同じ根拠であっても違う解釈が成り立つことに気付いたりすることができることから、思考力・判断力・表現力等を育む効果が期待できる。

(5) 展開

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>○前時までの学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の様子や鑑真について、場面を想起させる。 <p>○本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>鑑真は奈良時代の日本をどう思ったのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑真が日本をどう見ていたかについて、視点を分類させておく。
<p>○課題に対して意見交換する。</p> <p>A案 「いい国であった」</p> <p><内政></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑真は中国での権力闘争が嫌だったので、中央集権国家ができあがり、朝廷の支配が全国に及ぶようになって政治が安定しているのを、いいと思っているから。 ・鑑真は若い頃、貧民救済の事業を行っていることから、光明皇后など為政者が仏教の精神に基づき、庶民を保護する施設をつくっているのを、いいと思っているから。 <p><外交></p> <ul style="list-style-type: none"> ・争うことに否定的であることから、朝廷が周辺国に使節団を送るなど、良好な外交関係を築いているので、いいと思っているから。 <p><社会・産業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教を保護する朝廷には全国から税が入り、都で裕福な生活を送ることができるのを、いいと思っているから。 <p><文化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国では道教が仏教を押し始めたので、都を中心に大寺社が建設されるなど仏教文化が開花したのを、いいと思っているから。 ・中国から日本に仏教を広めようと意欲を燃やしていたので、庶民に智識のような仏教の考え方が普及しているのを、いいと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの表情が見えて話し合いがしやすくなるように、生徒の座席をコの字型に配置する。 ・前時に回収したワークシートから、生徒の意見を把握しておき、様々な考え方やその根拠が出るよう、意図的指名も行う。 ・A案・B案ともに、「内政面」「外交面」「社会・産業面」「文化面」の4つの視点に触れながら討論を行わせる。 ・「鑑真がどう思ったのか」について「判断する基準」が「鑑真の生い立ちから解釈した鑑真の見方・考え方」であることを想起させ、判断の妥当性の検証を行うための話し合いであること確認しながら、論点がずれないように助言する。

<p>B案 「いい国ではなかった」</p> <p><内政></p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑真は中国での権力闘争が嫌で、日本政界で権力闘争が繰り広げられていたことにうんざりしていたので、いい国とは思わなかったから。 <p><外交></p> <ul style="list-style-type: none"> 争うことに否定的であることから、新羅との国交関係が悪化していたので、周辺国と良好な関係を築いていないことから、いい国とは思わなかったから。 <p><社会・産業></p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑真は貧民救済を行った経験もあるので、農民の暮らしが苦しく、浮浪や逃亡する者も出てきたり、疫病や内乱がおこったりしているのを、いい国とは思わなかったから。 そもそも、鎮護国家思想のように、仏教に頼らないといけなくらい困窮しているというのを、いい国とは思わなかったから。 <p><文化></p> <ul style="list-style-type: none"> 中国から日本に仏教を広めようと意欲を燃やしていたが、文化は朝廷の位の高いものだけが享受することができ、庶民は仏教どころではなく生活に苦しんでいたのを、いい国とは思わなかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> A案、B案のどちらともいえないという意見が出た際には選択肢として認めるが、その「理由付け」について全体で検討していくよう助言する。 A案は赤、B案は青、どちらともいえないは緑のカードを胸ポケットに入れておき、立場が変わった場合はカードを変更するなど、常に自分の立場を明確にして発言できるようにする。
<p>【A案に対する予想される反論】と同時に 【B案に対する予想される反論への反論】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑真は争いが嫌いだったことが資料から読み取れるので、中央集権国家ではあったが権力闘争がおきていたことを、いいとは思っていなかった。 新羅とは緊張関係にあり、藤原仲麻呂が新羅征討を考えている。争いが嫌いな鑑真はこれを、いいとは思っていなかった。 貧民を救済したいと思っている鑑真にとって、貴族たちだけが裕福な暮らしをしているのを、いいとは思っていなかった。 仏教の精神を政治に取り入れているのはいいが、農民の重い税負担の上に成り立っていると考えられるので、いいとは思っていなかった。 	<p>【B案に対する予想される反論】と同時に 【A案に対する予想される反論への反論】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑真が日本にいた当時は、藤原仲麻呂が安定政権を築き、争いが常におきていたわけでもないし、仏教を保護したので、いいと思っている。 唐や渤海との関係は良好または悪化したとは書いていないので、新羅との関係だけで日本の外交が悪化したとは言い難いのではないか。 仏教を広めたいという強い意思をもって来日した鑑真は、自分が活躍する場が多くあり、広め甲斐がある国で、いいと思っている。 権力闘争で実力を握った人物ではあるが、貧民救済事業を行うなど、農民の負担を減らそうとしていることに対して、いいと思っている。
<p>○課題について分かったことをまとめる。 話し合いを終えて、自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことをまとめることで自らの学びを振り返らせる。

(6) 評価

奈良時代の日本の特色について、様々な資料を互いに関連付け、根拠を示しながら解釈したことを視点に、価値判断することができたか、ワークシートや発言によって評価する。

6 参考・引用文献

<方法に関するもの>

- ・朝倉啓爾・伊藤純郎・橋本康弘 2008『中学社会をよりよく理解する～平成20年告示 新学習指導要領』日本文教出版
- ・足立幸男 1984『議論の論理 民主主義と議論』木鐸社
- ・岩田一彦・米田豊 2009『中学校社会科「新教材」授業設計プラン』明治図書
- ・岩田一彦・米田豊編著 2009『「言語力」をつける社会科授業モデル中学校編』明治図書
- ・宇佐美寛 2003『論理的思考と授業の方法』明治図書
- ・岡崎誠司 2013『見方考え方を成長させる社会科授業の創造（社会科の授業改善1）』風間書房
- ・小原友行編著 2009『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン中学校編』明治図書
- ・小原友行・児玉康弘編著 2011『「思考力・判断力・表現力」をつける中学歴史授業モデル』明治図書
- ・桑原敏典 2009『中学校新教育課程 社会科の指導計画作成と授業づくり』明治図書
- ・児玉康弘 2001「中等歴史教育における「解釈批判学習」の意義と課題—社会科教育としての歴史教育の視点から—」『社会科研究』第55号, p. 11-20
- ・社会認識教育学会編 2010『中学校社会科教育』学術図書
- ・社会認識教育学会編 2003『社会科教育のニュー・パースペクティブ—変革と提案—』明治図書
- ・土屋武志 2011「多文化社会における解釈型歴史学習の役割」『歴史研究』愛知教育大学歴史学会, 57, p. 1-16
- ・土屋武志 2012「社会科における解釈型歴史学習の現代的意義」『愛知教育大学研究報告, 教育科学編』愛知教育大学, 61, p. 183-189
- ・富山大学人間発達科学部附属中学校 2012『富山大学人間発達科学部附属中学校研究紀要』第65号
- ・原田智仁 2009「中等歴史教育における解釈学習の可能性—マカレヴィ, バナムの歴史学習論を手がかりに—」『社会科研究』第70号, p. 1-10
- ・堀内一男・伊藤純郎・篠原総一編著 2008『中学校新学習指導要領の展開 社会科編』明治図書
- ・堀内和直 2012「中学校における歴史系博物館を活用したアウトリーチ教材の開発」『博物館雑誌』第37巻第2号, p. 125-133
- ・文部科学省 2008『中学校学習指導要領解説 社会編』
- ・文部科学省 2008『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（中央教育審議会答申）』
『文部科学省ホームページ』平成25年4月27日最終確認
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1216828_1424.html)

<内容に関するもの>

- ・安藤更生 1967『鑑真』吉川弘文館
- ・王勇 2008「鑑真渡日と唐代道教」『東アジア文化交渉研究』関西大学, 1, p. 105-112
- ・鐘江宏之 2008『律令国家と万びと』小学館
- ・木村晟 1984「『唐大和上東征伝』の解説本文」『駒澤大学文学部研究紀要』駒澤大学文学部, 42, p. 63-117
- ・桜井信夫 2004『鑑真と大仏建立』フレーベル館
- ・田辺征夫・佐藤信編 2010『平城京の時代』吉川弘文館
- ・東野治之 2009『鑑真』岩波書店
- ・吉川真司 2011『聖武天皇と仏都平城京』講談社
- ・渡辺晃宏 2001『平城京と木簡の世紀』講談社